

成人病問答

全 三 卷

監修 厚生省
提供 社団法人
企画 生命保険協会
全国地域婦人団体
連絡協議会

指導

関東通信病院 石山 俊次
国立公衆衛生院 平山 雄
癌研究会附属病院 山下 久雄
東京大学医学部 小田 太夫
大蔵省印刷局東京病院 秋山 房雄
国立栄養研究所 鈴木 慎次郎
国立東京第一病院 鴨谷 亮一
慶応義塾大学医学部 五島 雄一郎

撮影協力

東京都管工業健康保険組合
健康管理局
国立東京第一病院 病理室

解説

最近、人間の寿命がどろく程延びてきました。これは、医学や薬学の進歩により、外部から侵入するバイ菌による伝染病が恐れることはなくなつたこと、また手術の進歩によつて、もたらされたものです。しかし、一方では体内の部から起る病気、例えば脳卒中や癌、心臓病その他、内分泌、神経系の病気が、かえつてますます増えつております。これを死亡順位で見ると、昭和十年には結核が一位、次に肺炎、脳卒中、腸炎と続いてゐた順位が、昭和三十四年には、脳卒中がトップ、二位ガン、三位心臓病と全く入れ変つて、中年以後に発病する所謂成人病が上位を占めるようになり、日本全土では、脳卒中、ガン、心臓病により、九〇秒毎に一人たおれてゐるのです。しかも、これらの人々は、一家の大黒柱、社会の生産活動の中心となつてゐる働き手であるところに、今日成人病の社会的な大きな問題があり、頭脳の過労、空気の汚染、栄養過多というふうなその原因を考えてみると、この種の病気が、文明の進歩とともに増加する宿命を荷なつてゐると思へられます。ところで、これらの病気が、最初は格別の苦痛が無い状態、つい放置され、手遅れになりがちです。そこで成人病について一般の人々にもつと知つて頂いて、予防と早期発見に役立ててもらいたいというわけです。

この映画はごく懇意な医者から、成人病についての正しい常識を自然に知り、強い関心を持ち、恐怖や羞恥なく、予防や早期診断をするように、医者と患者の打ちつた問答形式をとりました。堅苦しい医学映画の壁を打破つた新しい試みだと自負する次第です。

撮影に当つては国立東京第一病院の高血圧センター、ガンセンター、外科、放射線科、病理検査科及び東京都管工業健康保険組合健康管理室の絶大な御協力を戴きましたことを深く感謝致します。

ストーリー

或る会社の広々とした事務室。加藤部長が、部長会議を忘れていて、あわてて会議室へゆく途中、すれちがいの部下を、「くわえ煙草で歩いちゃいかん、ネクタイが曲つてゐる」とどなりつけながら出て行くがそのあとでは、「近頃オヤジやおこりつぽいね」「その上忘れっぽくなつたよ」「やつぱりお年のせいかな」……と、こんな会話が部下の間で交されてゐた。

部長会議が終つて加藤さんは立上ろうとして急にめまいを起してよろよろと倒れかかつた。「おい君、少し変だぜ」重役が心配そうにのぞきこむと、「いや、ただのめまいです、近頃頭痛もちになりましてね、こんなこととがよいちよいあるんですよ」と気分を直して立ち上つた。「君もいよいよ成人病の仲間入りしたつてわけか、毎日新聞に出てゐるじゃないか」と重役はいわれて加藤さんは成程と感心した。そういえば毎日の新聞の死亡記事は、全部が脳卒中かガンか心臓病で、中年以後にかかる所謂成人病でうめられてゐるではないか。

こんな次で、加藤さんは心配になり、重役の紹介の医者を訪ねることになつた。診察室では、医者が加藤さんの血圧を計つてゐる。

平均血圧値より五〇ミリも高い、高血圧である。医者はつづいて眼底検査をしてみる。これは脳の動脈を直接見ることは出来ないで、脳に一番近い目の網膜に出る血管を調べてみると、脳動脈の様子も解るからである。検査の結果、細動脈の血液の流れが細くなつてゐる。これは動脈硬化の第一期症状である。

医者は更に尿を試験管にとつて蛋白の有無を調べてみる。腎臓がやられてゐるかどうかをみる為で、これには異常の無いことがわかつた。至極簡便な検査方法で調べられるのである。

そこで医者は、高血圧と腎臓や遺伝の関係、動脈硬化や脳卒中、脳軟化症などについて、やさしく話をし、予防法についても「食事のとり方」「受験勉強の子供を持つて、毎晩夜更しする母親」「北向きの寒い台所仕事の多い主婦」「酒にまつわる悪い習慣」の例などを上げて、たいへん具体的に話してくれた。医者は「バンドが延びれば命がちぢむといひますよ、体重は健康のパロメーターですからね」という。加藤さんは自分の肥満に心配して体重を計つてみる。ピンと針が廻る。標準体重より二十キロオーバーである。体重が一キロふえると血管は三キロメートル延びる、心臓はそれだけ余計に働くことになる。ということも加藤さんは始めて知ることが出

来た。心臓の検査では、レントゲン透視で心臓がかなり肥大してゐることがわかつたが、心電図では今の処あまり心配ないといふことであつた。医者は「冠状動脈の働き」「狭心症」「心筋梗塞症」についても、興味深く話してくれた。加藤さんは心臓病にタバコが悪いことや、充分に睡眠をとり、規則正しい生活をするのが、いかに大切であるかを、しみじみ知ることが出来た。高血圧と心臓病の検査で、加藤さんは今の処余り心配ないとわかるが、ガンが気掛かりになつた。医者は「大丈夫かどうかは身体全体を検査してみないと判りませんが、今はガンにかかりやすい年令ですから、一度専門医に健康診断をして貰う必要がありすね」と前置して、ガンが恐れられてゐるのは、転位して全身に拡がり、いたるところで増殖し、毒素をつくり出して、ついには身体全体を弱らせ命を奪つてしまふからで、そうならない初期のうちに、早く発見出来れば、外科手術や放射線治療によつて完全に治せることなど、「子宮ガン」を治した貧血の主婦や「食道ガン」にかかつた患者の体験談」を親切に語つてくれた。しかし、まだガンの原因は判つてゐないが、胃ガンは米どころに多く、肺ガンは都会に多いところから、「食生活」や「汚染した空気、タバコの煙」などが、ガンと関係があるらしいことや、初期症状を良く憶えていて、殊に乳房を触査して、早期に発見出来ることを知つて、ガンにかかつたら絶望だと思ひ込んでいた加藤さんにとっては、救われたような思ひだつた。加藤さんは診察を終つて街へ出ると、何気なくタバコを取り出して呑もうとするが、心臓に悪いことを思い出し、ひやりとして又しまひこむ。そして胃ガンや脳卒中の死亡率は世界でも日本がとびぬけて一番高いこと「これは日本人の生活や習慣が、どこかで、ゆがんだらまちがつたりしてゐるからで、成人病との闘いは国民全体の問題なんです」と話してくれた医者の言葉を思い浮べながら、雑沓の中で消えて行く。

スタッフ

製作 脚 監 撮 照

本 作 本 監督 影 明

山村 丸 杉 丸 森 村
高 山 山 原 山 瀬

祐 章 隆 栄
治 治 治 司

永 松 近 西 安

井 本 衛 方 島 藤

智 染 敏 梯
雄 升 明 信 郎
子

米 853 35mm
米 342 16mm
31分 上映時間
16mm プリント
45,000円

桜 映 画 社 ・ 作 品

東京都新宿区角答 2-84
TEL (371) 8241-5